

<p>【学校教育ビジョン】 豊かな心と確かな学力を備え、活力みなぎる金明っ子の育成 【めざす児童像】（重点） 元気いっぱい！ 笑顔いっぱい！ ・自ら学びに向かう子 （「確かな学力」の向上 主体的・対話的で深い学びを追求し、「わかった！ できた！」を大切に授業をめざす） ・やさしい子 自分で考え行動する子 （「豊かな心」の育成 生徒指導の三機能を生かした教育活動を推進する） ・たくましい子 （「健やかな体」の育成 挑戦する意欲、最後まで粘り強くやり抜く力を育む）</p>
--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「わかった！できた！」を大切に授業づくり	・個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	研究主任	・一斉授業において解決に向かう姿勢は概ね育っているが、一人ひとりがより主体的に学ぶ力を育てていきたい。	【努力指標】 ・児童に合った学び方を模索できる場や[金明トーク]を意図した場」を設定し、教職員が7人中 A 6人以上 B 4~5人 C 2~3人 D 0~1人	「児童に合った学び方を模索できる場や[金明トーク]を意図した場」を設定し、教職員が7人中 A 6人以上 B 4~5人 C 2~3人 D 0~1人	7月・11月に教職員対象にアンケート調査	B		児童に学び方の選択肢を示したり、金明トークを意図した学び場が増えつつある。しかし児童同士で話をつなげ、必要感をもって協働的に学び、深めるまでには至っていない。プロジェクトマネージャーに授業を参観していただき、児童に学びを委ねる場面について助言を頂く。金明トークの視点を各学年に応じて絞り、重点的に取り組んでいく。
	基礎・基本の定着	・計算チャレンジや「いどみ」と回答した教職員が(自習)、家庭学習の充実を図る。	教務主任	・児童は課題に真面目に取り組むが、全体的に基礎・基本の定着が弱い。練習を積み重ねて力と自信をつける必要がある。	【成果指標】 ・児童が計算の基礎・基本を身に付けている。	計算チャレンジの正答率80%を超える児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	計算チャレンジ (7月 12月)	A		前学年の計算チャレンジを行った。正答率80%を超える児童は、96%であった。前学年の3月にも実施し、苦手な児童には、個別指導を繰り返し行ってきた成果であると考えられる。定期的に指導を繰り返し、確実な定着につなげる。
②生徒指導	居心地のよい学校・学級づくり	・児童の自主的活動を主として、どの児童にとっても楽しく居心地のよい学校・学級づくりを目指す。	児童会	・感染症対策のため、児童会や縦割りの活動に制約のある生活が続いてきた。今後は、児童の主体性をより大切にしながら、個々の力を発揮させていきたい。	【満足度指標】 ・児童が「学校は楽しい」と感じている。	「学校は楽しい」と思う児童が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査	B		79%の児童が「そう思う」と回答した。児童会活動や縦割り活動の再開による異学年の交流や、見学等の学校外での体験が増えたこと等、児童が楽しめる活動が増えたことが理由と考えられる。今後も児童が主体的・自主的に行動できるよう働きかけていく。また、普段の生活に目を向け、自己有用感や集団への所属感を高められるような学級経営、エンカウンター等の人間関係づくりを図る。
	いじめ問題への組織的対応	・いじめ問題に、組織的かつ協働的に対応し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	生徒指導主事	単級のため、人間関係や個々の役割が固定化されている面があり、それに悩んでいる児童もいる。児童の思いを受け止め、真摯に向き合う体制を常に整えておく必要がある。	【満足度指標】 いじめの未然防止・早期発見・早期対応への取り組みが、組織的・協働的かつ日常的に行われている。	アンケートや面談の実施が、いじめ問題の対応に役立っていると回答した教職員が10人中 A 9人以上 B 7~8人 C 5~6人 D 4人以下	1・2学期末に、教職員を対象にアンケート調査	A		担任から生徒指導主事及び管理職への報告、連絡、相談に加え、養護教諭や教育支援員からも情報が寄せられ、問題の未然防止・早期発見・早期対応がなされている。ただし、依然学校生活において孤立感を感じている児童もいる。それが、いつの間にか、という状況にならないよう留意して学校・学級づくりに当たっていく。
③キャリア教育・進路指導	自己肯定感・自己有用感の向上	・個々の目標を持たせ、振り返りの場を大切に、自己の変容や成長に気づかせる。(自己評価、キャリアパスポートの活用)	キャリア教育	・日々の学校生活や行事の中で自分の目標を大切に、目標について達成度などを振り返ることができている。しかし、全体的に自己肯定感・自己有用感が低いことが課題となっている。客観的に自己評価をし、自信や次の目標・意欲につなげられる力を育てたい。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」と思う児童が A 80%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童アンケート (7月 11月)	A		「自分には良いところがある」と回答した児童の割合は、96%であった。今後も学校生活や行事のたびに児童自身に各学年に応じてめあてをもたせ、それに対して振り返る時間をとり、達成感を味わえるようにする。また、振り返り際には教師からの肯定的な声かけをし、児童が自信をもてるようにしていく。
④保健管理	健康に対する意識・実践力の向上	・計画的な指導により、病気やけがを予防し健康にすごそうとする意識・実践力の向上を図る。	保健主事 養護教諭	・病気やけがの予防について、正しい知識・技能を身に付けるとともに、自ら実践しようとする意識や態度を育てる必要がある。	【成果指標】 児童が病気やけがの防止を意識して実践している。	「病気やけがの予防に自分なりに工夫し取り組むことができた」と答えた児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1・2学期末に児童を対象としたアンケート調査	A		できた」と回答した児童の割合は、96%であった。保健給食委員会の児童が、健康な体づくりという視点で、食べ物クイズを実施することで、自ら健康について考えるよい機会となった。そこで、2学期以降は、けがの予防の観点で児童発信の取り組みを促していく。
	体力・運動能力の向上	・1校1プランの取組等により体力・運動能力の向上を図る。	体育	課題としてきたソフトボール投げについては、改善されてきたが、昨年度の体力テストでは、握力の記録が低い児童が多く見られる。	【成果指数】 握力の記録が、県平均並みになるように努めている。	握力の記録が6月に比べて上がった児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	6月、11月に4年生以上の児童を対象に計測	-		前年度の各学年の平均と比べて、高い児童の割合は34%であった。体育の準備運動において「グーパー運動」等を取り入れたり、鉄棒を実施したりすることで、記録向上を図っていく。
⑤安全指導	計画的な安全教育と避難訓練の実施	・計画的な指導や訓練により、身を守るための知識・技能の向上を図る。	教頭	・火災・地震・不審者等から身を守る知識や技能を身に付けるとともに、自ら考え行動できる力を育てる必要がある。	【努力指標】 ・児童が、生活、交通、災害に関する様々な危険の要因や事故等について理解し、進んで安全な行動ができるような安全指導に努めている。	生活、交通、災害に関する危険の要因や事故防止について理解し、進んで安全な行動ができるような安全指導に努めた」と回答した教職員が10人中 A 9人以上 B 7~8人 C 5~6人 D 4人以下	7月・11月に教職員対象にアンケート調査	B		全校避難訓練の他、不審者事案や付近の校区外での熊目撃情報等で、安全に関する指導を折にふれ行ってきた。2学期以降も不審者事案や休み時間による避難訓練、緊急時児童引き渡し訓練を計画的に行い、自ら考え行動できる力を育てていく。
⑥特別支援教育	個に応じた支援の充実	・配慮が必要な児童についての情報・効果的な支援のあり方を共有し、個に応じた支援を行う。	特別支援教育 コーディネーター	・定期的到校支援委員会を開き、専門相談員につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれの児童について、さらに継続して支援の方法を探っていく必要がある。	【努力指標】 支援委員会で、具体的な支援の方法を決めて、実践しようと努力している。	具体的な支援を行うことができたという教職員が10人中 A 9人以上である B 7~8人である C 5~6人である D 4人以下である	7月・11月に教職員対象にアンケート調査	A		校内支援委員会で具体的な支援の方法を話し合ったり、専門相談員や特別支援教育アドバイザーに見てもらい有効な手だてを教えてもらったりすることで、それぞれの児童に合った支援を行うことができたと感じている教職員が多い。2学期以降は、さらにLITALIGO教育支援ソフトを使った支援の方法も探っていく。
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化	組織的・協働的な視点から業務の効率化を図る。	教頭	・業務の平準化に課題がある。互いに声を掛け合って、協力・協働する必要がある。	【努力指標】 各部会で業務の効率化を図り、組織的・協働的に業務を行うことに努めている。	「業務改善に努め、時間外勤務時間の削減に努めている」と回答した教職員が10人中 A 9人以上 B 7~8人 C 5~6人 D 4人以下	勤務時間記録 7月・11月に教職員対象にアンケート調査	C		部会による協働の意識は高く、助け合いながら業務を進めている。しかし、個にかかる業務量の多さと平準化の難しさを抱えている。2学期より産休による教職員減少のため、これまで以上に軽重を付けて業務にあたる意識を高める。そのために、見直しを持って計画的に業務を進めていけるように、職員間で連携して業務にあたる。
⑧研修	教職員の得意分野を活かした学び合い	教職員各自の得意分野を活かしたOJTや研修会を計画的に実施する。	研究主任 教頭	・日常的なOJTは行われているが、研修時間の確保が難しい。計画的に互いに学び合う研修を行いたい。	【満足度指標】 OJTや研修で学び合いがあり、自分の力量アップに生かされている。	「学び合いがあり、自分の力量アップに生かされている」と回答した教職員が10人中 A 9人以上 B 7~8人 C 5~6人 D 4人以下	7月・11月に教職員対象にアンケート調査	A		主任、主事の連携がスムーズに行われる中、計画的に校内研修を行っている。職員室での会話も互いに学び合える雰囲気があり、個々の力量アップや意欲の向上につながっている。2学期も計画的に研修を行いながら個々の力量を高めていけるようにする。
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校づくり	・学校と地域・保護者が連携・協働できるCSの仕組みを整える。	教頭	・地域・保護者にCSについて周知するとともに、CSを中心に地域の「もの・ひと・こと」の教育力を生かす仕組みを整える必要がある。	【努力指標】 地域・保護者にCSについて周知し、「もの・ひと・こと」の教育力を生かす仕組みを整えることに努めている。	地域の「もの・ひと・こと」を生かす仕組みの整備に努めている」と回答した教職員が10人中 A 9人以上 B 7~8人 C 5~6人 D 4人以下	7月・11月に教職員対象にアンケート調査	B		1学期は、CSのコーディネーターと連絡を相互に取り合い、まちの先生を招聘した学習をタイムリーに行うことができた。2学期も計画的に行い、仕組みの整備を進めるとともに、地域の願いをきき、つながりを広げていく。
⑩教育環境整備	児童の意欲を高める環境づくり	・児童の頑張りが見える掲示や意欲を高める環境づくりの工夫に努める。	掲示 教務主任	・教室や校内掲示板に自学ノートや道徳ノートなど学びの跡が残るように意識してきた。今年度はさらに児童の学習意欲が向上する掲示に努めていきたい。	【努力指標】 児童の学びの足跡が残り、児童が学習に意欲的に取り組む掲示に努めている。	児童の意欲を伸ばす教育環境整備が出来ている」と回答した教職員が10人中 A 9人以上 B 7~8人 C 5~6人 D 4人以下	7月・11月に教職員対象にアンケート調査	A		肯定的な回答をした教職員は100%であった。算数ノートを掲示したり、3~6年生の自学ノートを展示したりした。その中でより良い自学ノートにする意欲をもつきっかけにすることができた。児童の意欲をさらに喚起するために、掲示したノートをみる機会を確保する。そこからどんな自学ノートのしたいかを考え、それを実践していけるように指導していく。

学校関係者評価	8/24 ・目標に対して、取組・評価・分析・改善と職員一丸で学校運営を行っている職員の見聞、一生懸命さとチームワークの良さで雰囲気よく業務にあたっているのが伝わる。校務支援システムを効果的に活用し、今後も協働の意識を大切にしたい。 ・安全指導について、地域と学校が連携した訓練ができないか。難しいことではあるが、通学路はどうなっているかといった情報を共有するシステム作りも考えていけるようにしたい。 ・開かれた学校づくりについて、例えば公民館を地域の人の交流の場として、もっと身近に活用できないか。教室から直接地域へ出かけ、地域の活動や習わしを知ってほしい。
---------	---